

募集班長の模型部屋（第7回）

皆さんこんにちは。

40歳を超えると、いくら好きなプラモデルでも疲れるんですよね。目だったり肩だったり。やはり、エッチングパーツをはじめとするディテールアップキットを使用すると格段に疲れが違います。これを見ているシニアモデラーの皆様はどうですか？私の場合、そんなときには、何も考えずにプラモデルをストレート組みして、疲れを取っています。今回は、そんなストレート組みで作った旧日本軍戦車シリーズ第2弾

97式中戦車です。



97式中戦車は、旧日本陸軍が使用していた主力戦車で、太平洋戦争開戦当初はその高い機動力をもって南方戦線で大戦果を上げていましたが、その非力な火力と脆弱な装甲で、すぐに苦戦を強いられることとなりました。

今回は、タミヤのキットです。発売からもう40年近くも経っているのに、最新キットに劣りません。もっとも、ハッチの裏など、手を加えなければならないところがありますが、根強い人気があるキットです。私がこのキットを始めて作ったのは小学校5年生の時でした。今の技術で、ストレート組みしたらどのようになるかを週末を使って試したものです。



小学校のころはキットを組んだ後、エナメル塗料の「カーキ」と「ダークグリーン」と「レッドブラウン」の3色迷彩を筆塗りし、ゴツテリしたものになっていました。当時はキットの値段が750円と小遣いが1000円であった私には高価なキットでしたので、大事に遊び倒していました。あれから30年が過ぎ、あの時と同じキットを作れる幸せを素直に喜びたいと思います。塗装は、グンゼの日本陸軍戦車色セットではなく、グンゼカラーの「枯草色」「草色」「土地色」の3色を使用しました。エアブラシで塗装しましたが、このように境界がぼやけて塗られていたかどうかはちょっと自信がありません。当時のことを考えると刷毛塗りのほうが多かったのでは・・・と思います。



操縦手は、装甲板に空けられた細長いスリットから前を見て操縦していたとのことですが、同じ戦車乗員として、その状態では操縦し難かったと思い、前方ハッチを空けた状態にしてみました。当然、操縦手も乗せています。見えますか？白い戦車用ゴーグルを装着した操縦手が見えます。同時期に発売になった1式砲戦車の少年兵を乗せています。あれ、なんかストレート組みするとか言って、小改造をしてるんじゃないの？

塗装の後、パステルコンテの赤茶で錆を表現しています。



斜め上方から見た97式中戦車です。ハッチの裏がツルツルの平面で、開け閉めのときどうするんだろう？と小学校の時は思っていたのですが、いいんです。ストレート組みする事が大事なのです。心を無にして黙々と作りました。



基本塗装の後スミ入れし、バフでドライブラシしました。これを作った時はウェザリンググスティックなどがなかったので、根気よくエナメル塗料でドライブラシです。あれ、キャタピラがちゃんと撓んでいる。そうです。実は、押入れの中からモデルカステンの可動キャタピラでなく、接着固定キャタピラが出てきたので使用してしまいました。なんだかんだいって、手を加えているじゃないか！皆様のお叱りの声が聞こえてきそうです。



このキットの約20年後に発売された、ファインモールド社の戦車士官と並べて記念撮影のイメージ（笑）です。旧軍戦車はリベット止めの戦車で、職人が作った感が出て良いですね。さて、次回は・・・
世界の戦車シリーズ第1弾

T-55 です。

またお付き合いください。

